

2018年1月実績概要(メモ)

(2018. 2. 22)

エチレン等製造装置の高稼働継続中、誘導品ではポリオレフィン、塩ビ樹脂の生産が増加。

1. 生産動向

イ) エチレン 584,400トン

前月比 +1.2% (+7,200トン)

前年同月比 ▲1.0% (▲5,800トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	—	—
定修要因等	—	—
能力増減	—	—
稼働率変動	+1.2%	▲1.0%
生産増減率	+1.2%	▲1.0%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月97.8%→当月99.0%←前年同月100.0%
 定修プラント：前月なし→当月なし←前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、主に稼働率要因からLD、PP、塩ビ樹脂、EO、AN、ベンゼンなどの7品目がプラス。PS、MMAモノマー、SBR、BR、トルエンなどの10品目はマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因等からLD、HD、塩ビ樹脂、MMAモノマー、AN、ベンゼンなどの8品目がプラス。PP、PS、EG、SBR、トルエン、キシレンなどの9品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、LDでは前月の生産が低めであったが、当月は稼働率要因から大幅に増加しPPとともにプラスとなった。HDは若干の減少、PSは前月の生産水準が高めであったこともありマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因等からLD、HDはプラス、PP、PSではマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、年末年始休暇等に伴うユーザー側での稼働日数に差があったことに加えて、昨年後半から堅調な出荷が続いてきたこともありLD、PP、PSでマイナスとなった。HDはほぼ前月並みの出荷となった。

前年比では、前年の出荷水準が1月としてはやや高めであったこと、また、本年の定修を控えた在庫積み増しの動きが加速化しつつあることもあり4樹脂揃ってのマイナスとなった。

ハ) 輸出

輸出数量は低位のままとなっている。前月比では前月の数量が極端に少なかったLDのみがプラス。HD、PP、PSはマイナスとなった。前年比では絶対量が少ないPSを除いて他の3樹脂ともマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PSで増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、PP、PSは上昇、HDは前月並みとなった。在庫水準としては4樹脂ともほぼ適正範囲内と見られる。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		12月末	1月末
LD	+38,800	3.1	3.3
HD	+17,300	2.9	2.9
PP	+39,500	2.6	2.8
PS	+3,700	1.4	1.5

以上